

話題1 「平成18年度試験研究成果発表会」を開催しました



会場入口

「千葉県の内水面水産研究所って今、どんなことやっているんだろう。」「淡水魚の試験・研究っていうけど、どんな仕事なの？」そんな疑問に答えるべく毎年開催しているのが、「試験研究成果発表会」です。

晴天に恵まれた小春日和の2月13日(火)、当研究所研修室で平成18年度の成果発表会を開催しました。

当日は漁業、養殖関係者を中心に40名を超える方々が聴講されました。

1. 「ワカサギのふ化放流技術について」-藍上席研究員-

ワカサギの放流は従来、受精卵を付着させたシュロ枠(シュロ樹皮の繊維を編んだ網の木枠)を湖面に浮かべて自然ふ化を待つ方法で実施していました。しかしこの方法では、卵に浮泥が沈着したり、水カビが発生したりして、ふ化率が低いことが問題でした。そこで、近年開発されたふ化器を使用した放流技術を導入するための実証試験を行いました。

2. 「千葉県におけるコイヘルペスウイルス病(KHVD)の発生状況について」-藤元研究員-

本県で最初にコイヘルペスウイルス病の発生が確認された平成15年11月から平成18年末までの発生症例をもとに、発生状況についての発表がありました。

発生件数は平成16年度をピークとして、その後は減少傾向にあります。しかしながら、その後も春、秋を中心に発生は継続しており、発生水域は南下傾向にあります。一度大量死が発生した天然水域ではコイの大量死は確認されていませんが、キャリア魚(健康保菌魚)が存在するとみられることから、コイの放流自粛を継続するとともに、管理水域ではコイの飼育池毎の管理を徹底させ、キャリア魚による疾病のまん延を防ぐことが重要になっています。



発表会場

3. 「利根川下流域におけるチャネルキャットフィッシュの生態について」-坂本研究員-

利根川下流域において、外来魚であるチャネルキャットフィッシュが近年急増しています。チャネルキャットの背ビレや胸ビレには特徴的な鋭いトゲがあり、それが漁労作業中に刺さったりウナギを取るための餌に先にかかってしまう等、漁業者にとって非常に厄介な存在となってきています。また、在来生物への影響も懸念されることから、本種の食性や繁殖時期についての生態を解明するための調査を行いました。



講演風景

4. 「ホンモロコ養殖技術について」-川合研究員-

ホンモロコ養殖については前号（内水研通信 8 号）でも触れましたが、琵琶湖を中心とした関西圏では非常に珍重されていることや、隣の埼玉県ではすでに養殖が定着していることから、本県でも地域的な特産品となるのではとの目論見から始まりました。実際の養殖を行なうにあたり幾つかの問題点も存在しています。そこで、卵の水カビ対策やふ化直後の餌である動物性プランクトンの代替えに配合飼料の使用が可能かどうかについて室内実験を行いました。また、休耕田を利用した養殖試験も実施しました。

それぞれの発表後には聴講者からの質問もお受けしました。

- ?-ワカサギ卵では芦ノ湖での事例紹介や卵の粘着性を落とす方法について。
- ?-コイヘルペスでは県内河川で発生した水域のその後の状況について質問がありました。
- ?-チャンネルキャットフィッシュは漁業者に実施したアンケート調査からの質問が出ました。
- ?-ホンモロコでは初期餌料となるミジンコの湧かし方や、水変わりといわれる水質の変化やアオミドロ等の緑藻が飼育管理を困難にするため、その解決方法はないか等参加者の関心は高く、今後の試験・研究を進めていく上で貴重な意見となりました。

今回の成果発表の詳細については今後、[ちばの農林水産業ホームページ内「試験研究成果普及情報」](#)にアップしますので、ご覧いただきたいと思ひます。

これからも、千葉県水産総合研究センター内水面水産研究所の試験・研究に注目してください。

話題 2 アンケート調査にご協力ありがとうございました！

上記演目で発表したチャンネルキャットフィッシュの漁業実態調査として利根川水系の 7 つの漁業協同組合の組合員約 1,500 名を対象に、平成 15 年から平成 17 年までの 3 年に亘りアンケート調査（平均回収率は 15%）を実施しました。この間、アンケートから得られた情報は、本種の生態を解明する上で貴重な資料となりました。ご協力いただいた皆様方には紙面を通じましてお礼申し上げます。

本アンケート結果の一部をご紹介します。

チャンネルキャットフィッシュは利根川水系において漁業によって広く認知され、既存の漁業で漁獲されている量が増加してきていること、漁獲されたほとんどは利用されずに廃棄されていることが分かりました。そして、季節に応じて行なっている地先毎の漁業種類において、さまざまな漁業被害を引き起こしているため、本種に対する漁業者の関心は高く、駆除を踏まえた対策を望んでいることが分かりました。

主な対象魚と漁業種類は、フナ（刺し網：秋～冬期）、ウナギ（はえなわ、筒：夏期、袋網：冬期（シラスウナギ））、コイ（刺し網：秋～冬期、釣り：周年）、エビ類（張網：周年）、雑魚（モツゴ・モロコ類、張網：周年）